



(発行)  
熊本市教育委員会事務局  
学校教育課 総合支援課  
学校サポート班  
(文責)  
指導主事 田中 慎一郎  
tanaka.shinichiro@city.kumamoto.lg.jp

## 正義のこころは捨てたくない…

いじめは、以下の4つの立場で構成されるといわれます。1つは「いじめ人」2つ目は「観衆（はやしたてたり、おもしろがったりして見ている人）」3つ目は「傍観者（見て見ない振りをする人）」そして、4つ目が「いじめられる人」です。多くのいじめは突如として起こるのではなく、人間関係のトラブルなどその前段階があります。

トラブルゼロを目指したいですが、それはなかなか難しいようです。時に、トラブルは人を成長させたりもしますから、すべてが悪いわけではありません。防がなければならぬのは、トラブルが深刻化し、いじめに発展することです。ではどのようにしたらそれを防げるのでしょうか。

先に示した4層構造で、いじめを継続、拡大させる要因に挙げられるのが、観衆や傍観者の影響です。観衆は、いじめを積極的に是認し、傍観者は、いじめを暗黙的に支持するので、いじめ行為を促進

する役割を担っているとされています。これは、何もいじめ発生時のみに当てはまるのではなく、その前のトラブル段階でも同じような働きがあります。だとすれば、観衆や傍観者の立場を無くすることで、トラブルにブレーキをかけることができます。トラブルを解消することで、いじめへ発展させずに済むのです。

攻撃側が見ているのは、観衆の存在と傍観者の態度です。それらが、自分の行為を非難する立場にあるのであれば、攻撃をすぐにやめるでしょう。誰も孤立を避けようとするからです。目の前のトラブルやいじめをクラスから無くしたいのであれば、自分が観衆や傍観者にならないことから始めましょう。

### ネットいじめをみんなで無くす

国の調査によると昨年度のネット世界でのいじめは1万2632件。実は、この4層構造はネット以外のいじめよりネット世界の方が、大きく



影響します。例えばLINEのグループトークでトラブルが発生したとします。一人の子を誰かが非難します。「ワウ（笑うという意味）」「オ——（°▽°）——!!」これらの書き込みをする子どもがいます。これは、はやし立てる観衆にあたります。言われている子がかわいそうだから、どうかしてやめさせたいけれど、逆に自分がやられそうで怖くて、見ているだけの人。これは、傍観者です。LINEは見ると既読がつきます。この既読が、さらに言われている人を追い詰めます。教

室の目の前でおこなわれているいじめに比べ、LINE上では、見ているだけの傍観者になりやすいのです。しかし、やめさせる勇気を出すのはなかなか難しいですね。どうすればよいのでしょうか。

過去にグループトークでのトラブルを先生である私に相談してきた生徒がいました。その生徒はこう言いました。「悔しいけど私には止める勇気はない。でも黙って見ているほど、正義の心を失ってはいない。私には、このことを大人に伝える勇気ぐらいい残っている。」

ネットのいじめは、正義の心を捨てずに、発した人が誰かに相談することが大切です。そうすることで、傍観者にならずに済むのです。そして、いつの日かいじめを学校からみんなでも無くしたいですね。

初詣に行きました！長い行列です。ようやく自分の番が来て、お賽銭を財布から取り出します。財布を見ると500円玉しかありません(´\_`)」「財布の中身を確認してから列に並べばよかったー」早くお賽銭を投げないと後ろの人が… 仕方ない！えいって思い切って投げました！ああ…神様おつりをもらえませんか(T\_T) ▼最近、スマホをかざしてお賽銭を払える神社があるそうです。外国の方に好評だとか… 確かに電子マネーなら私もこのようにことにならなかったかも… でもなんだか味気ないですね。▼神様からのおつりで何かいいことが起こるかもしれない。そう思って1年を過ごすことこそが、神様からの贈り物かもしれません。リアルがもたらす恩恵です。

